
短編（３）

夜鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編（3）

【Nコード】

N8547E

【作者名】

夜鳥

【あらすじ】

ふつ浮かんだものをそのまま書いてみました。

ねえ。

誰が僕を愛してくれるの？

ねえ、教えて。

こんな事、聞いたって解らないって解ってるけど。

でも

ねえ、教えてよ。

君は知っている？

誰が僕を愛してくれるのか。

僕はずっとそれが知りたくて、ずっと誰かを愛したかった。

ずっと、ずっと。

愛し愛される事の意味を、知りたかったただけなんだ。

僕は、愛されたかった。

愛したかった。

それだけなんだ。

でも。

でも、もうさようなら。

だつて。

君は、僕を送る為に来たのでしょうか？
いつまでも来ない僕を、迎えに。

ありがとう。

君は、こんな愚かな僕の為に、ここまで来てくれた。
一人では進む事も、戻る事も、何も出来ずに立ち尽くす僕を、
迎えに。

ありがとう。

僕は、探していた答えを見つける事は、とうとう出来なかった。
でもね、不思議と悲しくないよ。
それはね

ありがとう。

君が来てくれたから。

君が何をした訳じゃないけれど。

僕はずっと誰かに、ここへ来てほしかったんだ。

僕の隣へ、ずっと。

誰も一緒に行こうとは言ってくれなかった。

誰も、僕と歩いてはくれなかった。

僕は気付かなかったけど、どこか孤独だったんだ。

だから、ありがとう。

ここに今君が居てくれて、ありがとう。

君が来てくれた、この今日という日に、ありがとう。

いつか。

いつか僕が、誰か同じ孤独を持つ人を迎えに行きたい。
それが僕の愛すべき人。

同じ孤独の周波数で、僕の心に届いてほしい。

そうすれば、僕は迎えに行ける。

精一杯の愛しさを持って、迎えに。

僕が欲しかった分だけ、全て、その人に幸せをあげたい。

それが僕の幸せだから。

これが僕の、『愛する』という事。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8547e/>

短編（3）

2010年12月8日16時57分発行